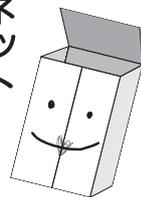


私の宝箱



「カスタネット」

との出会いから

成瀬 祐子

私のお気に入りのブタのカスタネットは、とても変わっているのです。ただ単にブタの形をしているわけではなく、大きなブタの顔が台になったものに、たれ目形のカスタネットが二つ、そしてお決まりのブタ鼻の形をしたカスタネットが一つ付いているのです。みなさんの知っているカスタネットは片手に持って、もう片方の手で「タンタン」とたたくものだと思いますが、このカスタネットは床に置いて膝の上に置いても、片手でたたきだけでよい音が出るのです。時には、あさひ・もみの木に通われている利用者と一緒にたたいて音色を聞くこともあります。カスタネットの紹介が少くし長くなってしまいました。もう少し面白い特徴があるので。実は、目と鼻の形をしたカスタネット以外にも、とっても小さなしずく型のカスタ

ネットが顔の隅にちょこんと付いているのです。「これは何だろう」と不思議に思ったのが、このカスタネットに興味を持つきっかけとなりました。

五年程前になりますが、母親に誘われて行った初めてのアート・クラフトフェア。そこには陶芸作家、木工作家、布作家など趣味の域を超えた手作りのプロ達が全国から参加して作品を販売していました。そこで出会った手作りのカスタネット。作家の方に、勇気を出して「このしずくは、一体何ですか?」と尋ねてみると「それはブタの涙だよ」という返事が返ってきました。そう言われると悲しそうな表情をしているブタにも見えてきて、何だかわいそう、という気持ちになり私の手元に戻ってくるようになったのです。

それがきっかけとなり、様々な場所で開催されるアート・クラフトフェアやカントリーフエスタへ出向くようになりました。手作りされた物を家族でゆっくりと見たり、作家の方とお話できる時間はとても幸せに感じます。もう少し器用だったなら、子供服などを手作りしてみたいのですが、私には遠い遠い道のりです。

(あさひ 介護職員)

絵本の世界

「ないたあかおに」

永井 雅代

我が家の二人の子供達は、絵本が大好きです。「絵本読むから二人で選んで。」と言うと走って選びに行きます。たまに喧嘩になることも…。

仕事をしている私にとって、子供と一緒に過ごす時間は貴重です。布団に入り二人の子供達とピタリとくっついて絵本を読む事は楽しみの一つです。

家の本棚には頂いた絵本が数多くあります。その中に私の兄がすすめてくれた「ないたあかおに」があります。登場する赤おには心の優しいおにだけれど、その姿から内面を正當に評価されず、村人は彼を恐れ近づこうとはしません。赤おには村人と仲良くなりたい事を友達の青おにに相談します。青おにはわざと村人を襲い、赤おには村人を助ける芝居をするのです。赤おには村人と仲良くなるけれど、青おには人間・赤おにの前から姿を消してしまいます。友情を描いた胸が熱くなるお話です。



ないたあかおにの絵本

この本を娘と息子に読んで聞かせました。子供達はじつとこの話を聞いていました。「おもしろくないなあ。」と思ったかもしれませんが…。私はこの絵本を読んだ後、娘と息子に『赤おに・青おにのよううに友達を大切にすること、思いやりをもって人に接する事の大切さをいつまでも忘れないで持って欲しい。』と話した覚えがあります。そのことがきっかけは分かりませんが、ある日娘の机に「泣いていた時に、一緒に遊ぼうって声かけてくれてありがとう。」という友達からの手紙がありました。私は嬉しく思い娘を抱きしめ、娘は照れくさそうに笑っていました。優しい気持ちをもいつまでも持ち続けて欲しいものです。

(はるか 介護職員)